

2019年2月27日

## 「家計調査」分析に見る静岡市、浜松市の消費特性

### ◆静岡市は和食、浜松市は地場産業関連品目の支出に特徴

- ・都市別消費支出日本一の品目として、静岡市は、まぐろ、しらす干し、緑茶など和食関連の品目が多く、浜松市は、うなぎのかば焼き、男子用和服、自動車購入など、地場産業関連の品目が目立つ。

### 【食に関する嗜好の比較】

- ・静岡市、浜松市とも米の支出が多く、飲酒や外食は少ないなど堅実な食生活がうかがわれる。食関連は東西で嗜好の分かれる品目が多い中で、静岡市は東日本、浜松市は東海や西日本に近い嗜好を示す品目が多数あり、静岡県は、東西食文化の転換点、融合点となっているケースが目立つ。

### 【生活財、文化に関する支出の比較】

- ・静岡市、浜松市とも恵まれた気象条件により、冷暖房、光熱関連のコスト負担が少ない一方、屋外型のアクティブな消費行動に適している。被服や教養娯楽関連費目は、商品、サービス、情報の最大の供給源である首都圏で消費水準が高く、県内2市は控えめである。

### ◆静岡県の消費特性

- ・静岡県は、被服や教養娯楽に関しては、最大市場である首都圏の影響下になく、恵まれた気象条件もあり、活動的で実利的な消費を好む傾向がある。また、東西文化の中間に位置する本県は、豊富な食材の生産地であることを活かし、東西双方向に向けた「食文化」の情報発信が可能な立地条件であるといえる。

担当: 主席研究員 塩野敏晴

# 1. 概況比較

## 静岡市は和食、浜松市は地場産業関連品目の支出に特徴

### 家計調査の概要

#### 都市別・地方別の比較が可能

「家計調査」は、総務省が国民生活における家計収支の実態を明らかにするために毎月実施し、都市別、地方別等に集計している。総務省が同様の目的で実施する調査に「全国消費実態調査」がある。これは、5年に一度の調査ながらサンプル数が多く（平成26年調査で全国約5万4,000、静岡県約1,600）、年間収入階級や世帯

主年齢階級などの世帯属性別、耐久消費財の所有状況など、より詳細な分析が可能である。一方、「家計調査」の調査世帯数は8,076（平成29年）、1都市当たりでは90～100前後（東京都区部は約400）となる。全国消費実態調査に比べてサンプル数は少ないものの、月次調査であるため速報性があり、年報で比較することで季節要因もカバーされるため、年間を通して購入頻度の高い食料品や日用品などの比較に向いて

図表1 家計調査における対象世帯の地域区分

- 都市階級別 大都市…政令指定都市及び東京都区部
- 中都市…人口15万人以上の市（大都市を除く）
- 小都市A…人口5万人以上15万人未満の市
- 小都市B・町村…人口5万人未満の市及び町村

#### 地方区分および都市一覧

地方	都道府県	都市
北海道	北海道	札幌市
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	青森市、盛岡市、仙台市、秋田市、山形市、福島市
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県	水戸市、宇都宮市、前橋市、さいたま市、千葉市、東京都区部、横浜市、川崎市、相模原市、甲府市、長野市
北陸	新潟県、富山県、石川県、福井県	新潟市、富山市、金沢市、福井市
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県	岐阜市、静岡市、浜松市、名古屋市、津市
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	大津市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、奈良市、和歌山市
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	鳥取市、松江市、岡山市、広島市、山口市
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県	徳島市、高松市、松山市、高知市
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県	北九州市、福岡市、佐賀市、長崎市、熊本市、大分市、宮崎市、鹿児島市
沖縄	沖縄県	那覇市

#### 調査方法等

今回は、サンプル数が少ないことによるバラツキを抑えるために、消費支出額は平成27年～29年の平均値をとり、全国＝100とする指数で消費水準を比較した。

比較対象品目は、すべての品目（細分類）を対象としたが、一部の品目では統合した上で比較した（ペット関連支出、園芸関連支出など）。

また、次のような品目は考察対象からは除外した。例えば、単価が高く、普及率や購入頻度の低い一部の耐久消費財などで都市別による比較ではバラツキが大きいもの、「他の〇〇」などで地域によって内容が異なることが予想されるもの等。

いる（全国消費実態調査は9～11月の3カ月調査から1カ月当たりの消費支出額を算出しているため、季節要因が反映されにくい）。

調査対象世帯は、全国の市町村に及んでいるが、地域区分は、①都市階級別：人口規模による4区分、②地方別：47都道府県を10地方に区分、③都市別：各都道府県庁所在市および政令指定都市計52都市、の3通りである（図表1）。

家計調査では、都道府県単位での結果は公表されていない。静岡県は、地方別では東海地方に属し、都市別では静岡市、浜松市の2都市が含まれる。

本稿では、この家計調査の調査対象費目を分析し、都市階級（大都市か小都市か）、生産地との関係、気象条件など、消費支出に影響を与える諸条件を整理した上で、そうした条件によらない東西の文化の違い等の要因を考察し、東西の中間点に位置する静岡県の立地条件、さらには調査対象となっている県内2市（静岡市、浜松市）の消費特性について、特徴を明らかにすることを目的とした。

### 世帯属性の特徴

大都市の方が世帯人員は少ないが消費支出は大きい

世帯属性の特徴を人口規模による都市階級別にみると、1世帯当たりの世帯人員は、大都市2.97人、中都市2.98人、小都市A3.00人、小都市B・町村3.06人と、都市規模が小さくなるほど世帯人員は多い（図表2）。有業人員についても同様である。持家率についても、大都市81.4%に対して、小都市A87.3%と、大都市よりも小都市の方が高い。

1世帯当たりの消費支出は、地方ごとの消費環境や世帯人員、持家率などの世帯属性に左右されると予想されるが、世帯当たり年間消費支出は、全国比（全国＝100、平成27～29年平均、

図表2 世帯属性の特徴

（全国＝100、平成27～29年平均）

区 分	世帯属性			年間消費支出額 (千円)	全国比	
	世帯人員 (人)	有業人員 (人)	持家率 (%)			
全国	3.00	1.34	84.9	3,410	100.0	
静岡市	3.08	1.48	79.6	3,516	103.1	
浜松市	3.28	1.55	88.5	3,397	99.6	
静岡市順位	14	8	34	21	—	
浜松市順位	1	5	10	31	—	
都市階級別	大都市	<u>2.97</u>	<u>1.30</u>	<u>81.4</u>	3,594	105.4
	中都市	2.98	<u>1.30</u>	85.1	3,435	100.7
	小都市A	3.00	1.34	87.3	3,317	97.3
	小都市B・町村	3.06	1.46	87.1	<u>3,178</u>	<u>93.2</u>
地方別	北海道	<u>2.78</u>	<u>1.13</u>	77.8	3,108	91.1
	東北	3.17	1.49	83.6	3,182	93.3
	関東	2.96	1.32	85.5	<u>3,587</u>	105.2
	北陸	<u>3.21</u>	<u>1.60</u>	91.0	3,533	103.6
	東海	3.08	1.45	89.1	3,472	101.8
	近畿	2.96	1.24	87.6	3,369	98.8
	中国	2.99	1.29	81.5	3,264	95.7
	四国	2.91	1.36	82.4	3,328	97.6
	九州	2.98	1.34	79.9	3,205	94.0
	沖縄	3.15	1.27	<u>64.7</u>	<u>2,530</u>	<u>74.2</u>

太字 は各カテゴリーで最大、斜字 は最小

注) 順位は52都市中

資料：総務省「家計調査年報」

以下同じ)で、大都市105.4、中都市100.7、小都市A97.3、小都市B・町村93.2と、大都市の方が大きい。これは、小都市の方が世帯人員、有業人員とも多く、したがって世帯当たりの収入、支出とも大きくなる要因がある一方で、大都市の方が持家率が低い上に地価が高く、家賃負担が大きいこと、大都市の方が高額所得者が多いとみられることや、商業、サービスなどの集積により、消費支出が大きくなりやすい立地条件にあること、等が要因と考えられる。

次に、世帯属性を地方別にみると、世帯人員、有業人員、持家率とも北陸が最大である一方、世帯当たり年間消費支出は関東が最大である。

政令指定都市である静岡県の2市は、都市階級別には大都市に区分されるが、静岡市については、1世帯当たりの平均世帯人員は3.08人と

小都市・町村並みに多い一方、持家率は79.6%と大都市の平均より低い。一方、浜松市は、世帯人員は3.28人と52都市中で最大で、持家率も88.5%と小都市以上に高い。

### 費目別消費支出の特徴

#### 大都市で教育等、地方都市で交通・通信が大きい

世帯属性の違いは、費目別の消費支出の特徴となって表れる。十大費目別の消費支出を都市階級別にみると、都市規模が大きいほど支出の大きい大都市型の費目と、都市規模が小さい方が支出が大きい地方型の費目とに分けられる(図表3)。前者には、食料、住居、被服及び履物、保健医療、教育、教養娯楽があり、とりわけ、住居、被服及び履物、教育、教養娯楽は、大都市と小都市との格差が大きい費目である。また、後者には、光熱・水道、交通・通信があげられ、家具・家事用品、その他の消費支出に

ついては、都市規模との関連性は薄い。

また、地方別にみると、大都市型の費目は、沖縄で高い住居を除いていずれも関東が最大となっており、東京都区部のほか5つの政令指定都市が集積する関東は、大都市型の傾向が色濃く表れている。一方、地方型の費目は、光熱・水道については東北が、交通・通信については東海が最大となっている。

静岡市は、住居(116.7)、教育(106.2)、その他の消費支出(113.7)が大きい一方で、家具・家事用品(89.0)、保健医療(91.8)、教養娯楽(93.3)などは平均以下であり、大都市と地方都市の双方の特徴を併せ持つ。一方、浜松市は、各費目が軒並み平均以下である中で、交通・通信(119.0)のみ大きいなど、地方都市としての色彩が濃い。

図表3 十大費目別消費支出の地域差

(全国=100、平成27～29年平均)

区分	消費支出	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	その他の消費支出	
全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
静岡市	103.1	104.3	116.7	102.8	89.0	98.9	91.8	96.7	106.2	93.3	113.7	
浜松市	99.6	97.2	86.0	95.1	99.3	98.7	93.4	119.0	93.0	99.6	98.0	
静岡市順位	21	13	10	18	47	31	38	35	18	37	12	
浜松市順位	31	34	42	38	26	32	35	4	27	24	36	
都市階級別	大都市	105.4	107.3	121.6	<u>98.3</u>	101.0	114.5	106.3	<u>92.9</u>	128.1	111.9	99.8
	中都市	100.7	100.7	98.0	99.9	99.7	101.3	98.7	99.4	106.7	101.4	102.1
	小都市A	97.3	96.5	92.3	99.6	100.2	93.0	98.8	104.7	84.4	96.0	<u>96.9</u>
	小都市B・町村	<u>93.2</u>	<u>91.2</u>	<u>77.6</u>	104.0	<u>98.5</u>	<u>82.6</u>	<u>93.2</u>	<b>106.6</b>	<u>61.0</u>	<u>82.2</u>	101.0
地方別	北海道	91.1	88.4	97.6	117.3	87.0	86.9	93.1	93.4	62.9	83.6	92.0
	東北	93.3	94.3	<u>79.7</u>	118.9	91.7	83.1	95.9	99.3	58.9	78.5	98.7
	関東	105.2	105.4	112.3	98.4	104.7	110.1	107.6	99.5	126.3	112.0	99.5
	北陸	103.6	102.9	94.3	115.0	97.9	90.8	88.4	112.0	76.6	95.7	114.8
	東海	101.8	99.0	89.9	98.7	99.1	99.0	94.7	<b>115.2</b>	98.0	104.8	103.2
	近畿	98.8	103.4	96.9	98.8	98.5	101.7	100.9	88.9	106.2	103.3	94.6
	中国	95.7	97.1	90.2	93.2	103.3	89.2	98.4	99.7	75.5	89.6	100.6
	四国	97.6	92.1	94.4	96.5	94.4	98.0	96.5	100.7	75.7	87.2	117.0
	九州	94.0	90.1	95.2	89.6	100.6	94.1	92.8	103.3	75.9	83.5	103.2
沖縄	<u>74.2</u>	<u>78.3</u>	113.5	<u>86.6</u>	<u>76.5</u>	<u>54.9</u>	<u>70.1</u>	<u>75.8</u>	<u>58.7</u>	<u>53.8</u>	<u>68.3</u>	

太字 は各カテゴリーで最大、斜字 は最小

資料：総務省「家計調査年報」

### 静岡市・浜松市が日本一の品目

静岡市は和食、浜松市は地場産業関連品目が多い

品目別ランキングで静岡市が消費支出日本一の品目をみると、まぐろ（235.6）、しらす干し（320.4）、他の魚肉練製品（204.2）、ねぎ（135.3）、じゃがいも（125.8）、緑茶（230.5）など和食関連の食材が多い（図表4）。さらに、うなぎのかば焼き、ぎょうざ、サラダ、ハンバーグなど17品目を合計した調理食品（121.5）でも1位である。これは、米の消費が多い（静岡市は2位、浜松市は5位）こととも関連がある（詳細後述）。一方、浜松市は、うなぎのかば焼き（241.2）、ぎょうざ（201.1）のほか、布団（201.1）、男子用和服（550.2）が1位であり、かつての繊維産業集積の名残や祭りが盛んな様

子がうかがわれるほか、自動車購入（211.0）も1位と、地場産業関連の品目が目立つ。

静岡市が日本一である食材は浜松市でも上位にランクされ、静岡県に共通の傾向といえる。また、静岡市は緑茶が日本一（浜松市は3位）である一方、他の茶葉（66.9）、コーヒー（76.0）は最下位であり、浜松市では、炭酸飲料（69.7）、発泡酒・ビール風アルコール飲料（59.8）が最下位である。このように食品関連の嗜好は両市とも近いものがあるが、繊維関連（布団、男子用和服）、自動車の支出は静岡市では少ない。この他、静岡市は自動車以外の輸送機器整備費（二輪車、自転車などの修理代等）（202.3）が1位であり、「自動車の浜松、二輪車・自転車の静岡」といった対比も見られる。

図表4 静岡市・浜松市が消費支出で日本一・最下位である品目

（都道府県庁所在市・政令指定都市52都市によるランキング）

（全国＝100、平成27～29年平均）

静岡市が日本一の品目				浜松市が日本一の品目			
品目	全国比		(浜松市順位)	品目	全国比		(静岡市順位)
	静岡市	浜松市			浜松市	静岡市	
まぐろ	235.6	129.6	12	うなぎのかば焼き	241.2	119.4	12
しらす干し	320.4	175.8	4	ぎょうざ	201.1	113.6	7
他の魚肉練製品(注1)	204.2	138.6	5	布団	201.1	55.5	47
ねぎ	135.3	106.6	20	男子用和服	550.2	50.2	36
じゃがいも	125.8	114.3	12	子供靴	163.3	107.7	25
調理食品 ※17品目の合計	121.5	116.9	4	自動車購入	211.0	72.4	40
緑茶	230.5	154.7	3	注1) はんぺん、しんじょ、魚肉ソーセージなど			
柔軟仕上剤	122.5	113.1	5	注2) オートバイ、自転車などの整備、修理代			
自動車以外の輸送機器整備費(注2)	202.3	121.4	17				

静岡市が最下位の品目				浜松市が最下位の品目			
品目	全国比		(浜松市順位)	品目	全国比		(静岡市順位)
	静岡市	浜松市			浜松市	静岡市	
他の茶葉(注3)	66.9	89.2	41	さつまいも	67.1	93.1	37
コーヒー	76.0	83.6	48	炭酸飲料	69.7	91.1	36
教養娯楽用品修理代(注4)	12.0	81.9	32	発泡酒・ビール風アルコール飲料	59.8	90.2	36
				男子用上着	56.6	86.3	39
				パーマメント代	37.7	56.0	50

注3) 玄米茶、麦茶、はとむぎ茶、杜仲茶など

注4) 文房具、運動用具、玩具などの修理代

総務省「家計調査年報」をもとに作成

## 2. 食に関する嗜好の比較

### 堅実志向、東西食文化の融合点

食料品は、家計調査の対象品目の中でも地域色の出やすい費目である。ここでは、食関連の各品目について特徴をみていく。

#### ①主食、主菜類

##### 米の支出が多い静岡県

まず、食に関する基本的な嗜好性から、全国の各地方と静岡県の2市を比較してみる。

主食である米、パンなどの穀類の消費支出は、全国的に大きな差はないが、米は北海道・北陸・沖縄、パンは近畿・中国、麺類は東北・北陸・四国で特に多い(図表5)。静岡県は、静岡市・浜松市とも米の支出が多い。

次に主菜類については、肉と魚の比較では、肉類は西日本、魚介類は東日本で好まれる傾向がある。肉類の中でも、西日本では近畿を中心に牛肉を特に好むほか鶏肉も多く、東日本では豚肉の方が好まれる。魚介類の中では、生鮮魚

介は中国・北陸・近畿、塩干魚介は北日本、魚肉練製品は四国など西日本で消費が多い。

静岡市は、肉類では豚肉(107.8)を好み、魚介類(109.4)の支出も多いなど、東日本に近い特徴を有する。ただし、静岡市では、魚介類は生鮮・塩干・練製品いずれも全国平均以上の支出である。一方、浜松市は、豚肉以外は肉類、魚介類ともいずれも平均以下であり、東海地方に近い特徴を有する。

#### ②味付け等

##### 県内は、かつおだし・みそ味を好む

調味料については、食塩とみそは東北など東日本や北陸で多く、砂糖、酢、しょう油は九州など西日本で多い傾向がある(図表6)。九州は、砂糖、酢、しょう油、みそとも全国比120以上と地方別で最も多いほか、食塩も北陸に次いで多く、濃い味付けが好まれていることがうかが

図表5 主食、主菜類の消費支出

(全国=100、平成27~29年平均)

地方	穀類			肉類			魚介類				
	米	パン	麺類	牛肉	豚肉	鶏肉	生鮮魚介	塩干魚介	魚肉練製品		
北海道	122.3	79.1	94.7	84.8	40.7	94.6	84.6	104.1	93.5	125.5	90.4
東北	89.4	78.6	115.1	84.6	53.2	102.5	78.3	106.1	98.4	117.2	109.5
関東	100.3	100.7	100.6	94.6	81.2	103.8	93.9	102.3	100.2	106.3	91.9
北陸	120.6	99.5	109.3	93.9	80.9	103.2	81.7	109.6	109.5	114.6	101.2
東海	102.8	100.1	101.8	98.7	94.0	99.6	94.7	92.7	93.5	87.0	99.3
近畿	100.4	118.7	101.1	119.8	160.8	101.7	119.1	104.8	109.0	101.3	106.3
中国	91.7	109.3	99.7	107.6	127.7	93.7	113.4	101.5	111.2	85.7	111.1
四国	82.8	101.6	109.4	102.1	131.0	87.6	105.0	88.6	92.0	76.6	123.3
九州	92.3	87.2	82.8	105.1	119.6	92.0	119.2	89.9	92.5	85.7	108.4
沖縄	122.4	75.5	73.5	80.6	57.6	87.3	69.9	57.4	58.4	20.4	55.2
静岡市	127.0	103.2	99.6	96.9	73.5	107.8	95.6	109.4	105.9	117.0	104.7
浜松市	119.3	99.9	91.5	86.6	49.1	106.9	88.1	95.6	94.8	92.4	94.7
備考 (特に多い地域)	北海道、北陸、静岡県で多い	近畿、中国で多い	東北、北陸、四国で多い	近畿・西日本で多い	近畿・西日本で多い	静岡県、東日本で多い	近畿・西日本で多い	東日本で多い	中国、近畿、北陸で多い	北日本で多い	西日本で多い

全国=100      ~110      ~120      120以上

総務省「家計調査年報」をもとに作成

われる。東北についても、酢を除き、調味料の消費支出が全体的に多い。

だしの材料は、比較的地方単位で嗜好の違いが表れており、かつお節・削り節は沖縄、関東、東海、四国、こんぶは北陸、東北、近畿、干しいたけは沖縄、九州、東海、北海道で好まれている。

静岡県は静岡市、浜松市とも、調味料はみその消費支出が多く、他は平均以下である。だしの材料は、かつお節・削り節の消費水準が2市とも高く、特に好まれている（52都市ランキングで静岡市3位、浜松市4位）。

### ③魚介類

県内は、まぐろ、かつおの消費が多い

地域ごとの消費支出の水準は、特に生鮮食料品の場合、その品目の生産地であることが大きく影響していると思われるが、とりわけその傾向が強いのが魚介類である（図表7）。

図表6 味付け材料の消費支出

(全国=100、平成27～29年平均)

地方	調味料					だしの材料		
	砂糖	食塩	酢	しょう油	みそ	かつお節・削り節	こんぶ	干しいたけ
北海道	99.6	104.3	104.6	86.1	84.3	74.3	84.0	112.4
東北	111.3	108.7	93.0	109.5	117.6	80.6	121.8	89.6
関東	89.3	105.0	99.7	88.1	103.1	109.5	94.5	91.4
北陸	96.8	113.1	80.9	112.8	105.0	61.2	182.9	105.6
東海	96.3	85.3	91.4	102.4	94.0	105.8	77.9	127.8
近畿	100.7	90.8	100.2	100.6	85.2	97.6	115.7	95.1
中国	110.5	97.2	102.5	115.7	96.5	86.8	95.2	70.6
四国	111.1	80.9	100.0	120.0	90.1	106.1	77.8	49.8
九州	125.2	108.8	121.3	122.7	120.3	87.2	89.8	133.1
沖縄	108.7	95.9	78.8	61.4	76.4	297.0	93.1	149.2
静岡市	94.3	99.7	92.6	97.0	113.8	141.9	105.4	83.8
浜松市	94.2	78.1	91.5	98.9	118.0	137.2	71.2	91.5
備考 (特に多い地域)	九州、西日本で多い	北(東)日本で多い	九州で多い	九州、西日本で多い	九州、東北で多い	沖縄、静岡県、関東で多い	北陸、東北、近畿で多い	沖縄、九州、東海で多い

全国=100

～110

～120

120以上

総務省「家計調査年報」をもとに作成

たとえば、まぐろやかつおなど太平洋を主な漁場とする魚種は、太平洋側の水揚げ港周辺での消費支出が多く、日本海側で水揚げの多いかれいやいかは、日本海側で消費支出が多い。さらに、北日本ではさけやさんま、西日本ではあじやたいなど、それぞれの地方で水揚げされる魚種の消費水準が高くなっている。

図表7 魚介類の消費支出

(全国=100、平成27～29年平均)

地方	太平洋側で多い			日本海側で多い		北(東)日本で多い			近畿で多い		西日本で多い	
	まぐろ	かつお	あさり	かれい	いか	さけ	さんま	しじみ	たこ	えび	あじ	たい
北海道	77.7	45.7	54.7	171.6	109.0	136.0	133.7	162.1	98.4	101.4	12.9	27.2
東北	99.1	188.5	91.9	157.2	114.0	111.6	159.2	146.8	89.8	76.0	40.7	37.6
関東	148.9	102.3	115.3	76.1	84.3	108.2	103.0	125.1	97.3	85.8	98.2	69.9
北陸	66.2	58.3	102.6	160.1	147.9	97.2	86.9	137.8	93.6	100.7	120.5	88.4
東海	115.5	84.4	108.5	56.1	95.8	92.3	93.3	49.3	98.0	105.1	73.1	72.4
近畿	69.2	103.4	80.6	132.8	115.0	94.8	92.4	71.8	136.5	136.6	92.0	161.3
中国	38.5	90.5	101.2	152.9	127.2	100.0	101.0	120.8	102.6	120.5	163.4	161.7
四国	48.8	220.5	89.8	66.1	95.2	77.1	97.1	75.0	98.6	94.9	121.4	132.7
九州	29.7	58.7	97.7	80.0	96.1	75.4	63.3	44.0	67.4	94.6	184.9	177.1
沖縄	104.7	56.1	50.6	14.1	49.1	76.9	79.7	28.7	47.9	62.0	13.1	57.5
静岡市	235.6	144.5	133.7	30.8	110.2	85.0	95.3	110.7	90.4	105.3	111.2	46.3
浜松市	129.6	207.8	125.8	53.1	94.6	107.1	120.2	37.5	84.8	88.6	77.5	47.9
備考 (特に多い地域)	静岡～関東で多い	静岡、四国、宮城周辺で多い	関東～東海で多い	東北～山陰で多い	北陸～山陰で多い	北海道～関東で多い	北海道～関東で多い	関東以北と山陰で多い	近畿、瀬戸内が多い	近畿、瀬戸内が多い	九州～中国で多い	近畿～九州で多い

全国=100

～110

～120

120以上

総務省「家計調査年報」をもとに作成

これをさらに詳細に、都市別消費支出の分布でみる。図表8は、調査対象52都市の消費水準を日本地図に模し、漁獲量の上位都道府県と比較したものである。まぐろは、静岡市が消費支出日本一であるが、まぐろ類の漁獲量でも静岡県が全国1位である。静岡市以外では、甲府市、横浜市など静岡県近隣から関東地方で多く消費されており、かつて「江戸前寿司」や「づ

け」として親しまれてきたまぐろの食文化が現在も続いているとも考えられる。このほか、宮城県周辺や津市など太平洋側の水揚地での消費支出が大きい。宮崎県、高知県などの西日本の都市では漁獲量が多い割には、さほど好まれていない。

たいについては、漁獲量、消費支出とも九州を中心とする近畿以西の西日本が多く、まぐろ

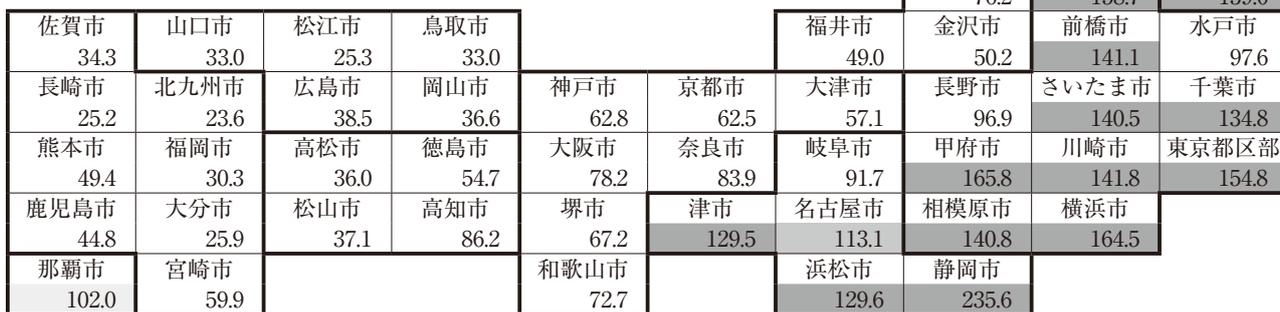
図表8 魚介類の漁獲量と消費支出①

まぐろ

順位	漁獲量 ※		消費支出	
	都道府県	(%)	都市	全国比
1	静岡	17.4	静岡市	235.6
2	宮城	10.8	甲府市	165.8
3	宮崎	10.7	横浜市	164.5
4	高知	9.5	宇都宮市	158.7
5	鹿児島	7.5	東京都区部	154.8

※まぐろ類計

全国 = 100  
 ~ 110  
 ~ 120  
 120 以上



たい

順位	漁獲量 ※		消費支出	
	都道府県	(%)	都市	全国比
1	長崎	18.2	佐賀市	288.2
2	福岡	8.9	熊本市	237.4
3	島根	6.5	長崎市	231.9
4	兵庫	6.1	山口市	209.2
5	山口	6.1	北九州市	208.5

※たい類計



注) 漁獲量は平成29年の全国シェア、消費支出額は平成27～29年平均総務省「家計調査年報」、農林水産省「水産統計」をもとに作成

とは好対照となっている。たいが最も好まれる九州各地の消費水準は、最も少ない東北各地の5倍以上あり、逆に東日本で好まれるまぐろは、関東地方では九州各地の5倍以上消費されるなど、地方格差も大きく、まぐろとたいは、東西で嗜好が明確に分かれている。

かつおも、静岡県は漁獲量が日本一であり、静岡市、浜松市とも消費支出は全国平均を大幅

に上回るが、高知市以下の四国各市、福島市、仙台市とその周辺といったように、宮城県や高知県など太平洋側の水揚地周辺において局所的に消費水準が高い（図表9）。

これと対照的に、かれいは、主たる水揚地である北海道、東北以下、かれいの主な漁場である日本海沿岸地域一円で、ほぼ例外なく消費支出が多い。

図表9 魚介類の漁獲量と消費支出②

かつお

順位	漁獲量 ※		消費支出	
	都道府県	(%)	都市	全国比
1	静岡	31.5	高知市	507.3
2	東京	11.0	福島市	250.9
3	宮城	10.3	浜松市	207.8
4	三重	8.1	水戸市	200.2
5	高知	7.8	仙台市	200.0

※かつお類計

全国 = 100  
 ~ 110  
 ~ 120  
 120 以上

佐賀市	山口市	松江市	鳥取市			福井市	金沢市	前橋市	水戸市
51.9	77.9	67.6	71.9			52.7	44.8	68.1	200.2
長崎市	北九州市	広島市	岡山市	神戸市	京都市	大津市	長野市	さいたま市	千葉市
71.2	42.9	86.5	103.3	97.1	96.3	96.1	70.3	87.3	105.7
熊本市	福岡市	高松市	徳島市	大阪市	奈良市	岐阜市	甲府市	川崎市	東京都区部
71.4	44.0	126.4	155.3	101.1	114.9	67.8	47.5	80.9	101.9
鹿児島市	大分市	松山市	高知市	堺市	津市	名古屋市	相模原市	横浜市	
107.8	41.5	133.3	507.3	114.5	122.6	75.2	90.2	91.4	
那覇市	宮崎市			和歌山市		浜松市	静岡市		
65.2	177.8			133.4		207.8	144.5		

かれい

順位	漁獲量 ※		消費支出	
	都道府県	(%)	都市	全国比
1	北海道	53.8	鳥取市	273.3
2	宮城	7.9	秋田市	246.5
3	鳥根	6.2	青森市	231.4
4	兵庫	5.1	新潟市	214.3
5	鳥取	4.9	金沢市	192.3

※かれい類

佐賀市	山口市	松江市	鳥取市			福井市	金沢市	前橋市	水戸市
136.6	160.4	176.9	273.3			162.3	192.3	39.0	72.4
長崎市	北九州市	広島市	岡山市	神戸市	京都市	大津市	長野市	さいたま市	千葉市
57.2	172.5	125.9	135.8	103.3	168.4	166.8	92.8	83.3	85.1
熊本市	福岡市	高松市	徳島市	大阪市	奈良市	岐阜市	甲府市	川崎市	東京都区部
63.0	95.7	106.1	59.9	142.0	184.6	60.2	47.2	70.4	84.3
鹿児島市	大分市	松山市	高知市	堺市	津市	名古屋市	相模原市	横浜市	
27.5	98.5	71.4	31.9	129.3	54.7	57.8	82.0	95.7	
那覇市	宮崎市			和歌山市		浜松市	静岡市		
19.4	37.1			86.6		53.1	30.8		

注) 漁獲量は平成29年の全国シェア、消費支出額は平成27～29年平均総務省「家計調査年報」、農林水産省「水産統計」をもとに作成

しじみは、宍道湖のある島根県が最大の産地であり、消費支出も松江市が突出して多い（図表10）。しかし、宍道湖以外の産地は、青森県以下、北～東日本が多く、多摩川で水揚げされる東京都も第5位の漁獲量である。消費支出も関東以北の東日本で多いが、徳島市（吉野川）、大津市（琵琶湖）など、西日本でも産地で局所的に多い傾向がある。しじみは、漁師ではない

一般住民でも比較的採取しやすい食材であるため、産地で古くから親しまれてきたとも考えられる。静岡県内ではしじみの漁獲はないが、静岡市の消費支出は全国比110.7と平均以上であり、関東地方の食文化の影響がうかがわれる。一方、浜松市は、味噌汁の具材としては、地元の浜名湖であさが採れるためか、しじみの消費支出は少ない。

図表10 魚介類の漁獲量と消費支出③

しじみ

順位	漁獲量		消費支出	
	都道府県	(%)	都市	全国比
1	島根	40.5	松江市	621.3
2	青森	31.8	水戸市	246.7
3	茨城	11.8	秋田市	242.8
4	北海道	8.3	青森市	221.5
5	東京	3.0	新潟市	201.2

全国 = 100  
 ~ 110  
 ~ 120  
 120 以上

佐賀市 77.9	山口市 75.0	松江市 621.3	鳥取市 194.3	福井市 97.2	金沢市 92.0	前橋市 85.3	水戸市 246.7		
長崎市 47.8	北九州市 45.3	広島市 73.5	岡山市 85.8	神戸市 60.2	京都市 92.6	大津市 129.8	長野市 73.7	さいたま市 126.9	千葉市 125.1
熊本市 33.9	福岡市 32.8	高松市 67.9	徳島市 134.0	大阪市 63.3	奈良市 75.6	岐阜市 55.0	甲府市 173.0	川崎市 98.1	東京都都区部 143.5
鹿児島市 23.3	大分市 51.1	松山市 52.5	高知市 90.2	堺市 78.9	津市 44.7	名古屋市 48.0	相模原市 103.0	横浜市 150.1	
那覇市 29.4	宮崎市 93.4			和歌山市 76.7		浜松市 37.5	静岡市 110.7		
								札幌市 142.0	青森市 221.5
								秋田市 242.8	盛岡市 136.1
						新潟市 201.2	山形市 88.7	仙台市 145.2	
						富山市 95.4	宇都宮市 113.7	福島市 153.7	

たこ

順位	漁獲量 ※		消費支出	
	都道府県	(%)	都市	全国比
1	北海道	59.2	奈良市	141.6
2	宮城	5.6	高松市	137.5
3	岩手	5.4	大阪市	136.3
4	兵庫	4.5	堺市	130.4
5	青森	2.8	神戸市	130.3

※たこ類

佐賀市 59.0	山口市 80.6	松江市 61.3	鳥取市 78.8	福井市 100.3	金沢市 94.8	前橋市 75.0	水戸市 100.3		
長崎市 80.8	北九州市 72.3	広島市 113.5	岡山市 117.9	神戸市 130.3	京都市 127.7	大津市 113.5	長野市 87.6	さいたま市 89.8	千葉市 108.1
熊本市 81.1	福岡市 67.8	高松市 137.5	徳島市 83.5	大阪市 136.3	奈良市 141.6	岐阜市 104.9	甲府市 78.8	川崎市 95.9	東京都都区部 120.0
鹿児島市 83.7	大分市 66.5	松山市 98.5	高知市 89.4	堺市 130.4	津市 110.6	名古屋市 121.1	相模原市 98.3	横浜市 111.9	
那覇市 40.8	宮崎市 53.4			和歌山市 111.9		浜松市 84.8	静岡市 90.4		
								札幌市 100.2	青森市 78.5
								秋田市 63.2	盛岡市 88.7
						新潟市 101.8	山形市 107.8	仙台市 98.1	
						富山市 92.7	宇都宮市 88.9	福島市 91.1	

注) 漁獲量は平成29年の全国シェア、消費支出額は平成27～29年平均総務省「家計調査年報」、農林水産省「水産統計」をもとに作成



の葉寿司（奈良県）など、鯖を使った郷土料理が沿線各地で食文化として伝承され、福井市～（大津市）～京都市（～奈良市）※に至る鯖街道沿線各市の消費水準は依然として高い。

※鯖街道のルートは諸説あり

また、和食の味付け等に使用されるこんぶは、東北、北陸、近畿で好まれているが（図表6参照）、これは、かつての北前船により、北海道、東北産の昆布が、北陸経由で当時の日本の最大の消費地で首都でもあった京都、大阪に運ばれていたことに由来するとみられ、現在でも日本

海側の各地から近畿地方での消費水準が高く、料理の味付け等にも影響を与えていると考えられる。

#### ④野菜

##### 静岡市は全体的に野菜の支出が多い

野菜の消費については、各品目とも指数は全国平均プラスマイナス2割前後（80～120）と、全体的に地域による大きな差異なく消費されている。ここでは、主な品目について、関東（東日本）で多いものと、近畿（西日本）で多いものに分けてみた（図表12）。前者には、レタス、

図表 12 野菜類の消費支出

地方	関東（東日本）で多い						近畿（西日本）で多い					
	レタス	ブロッコリー	だいこん	トマト	きゅうり	ドレッシング(参考)	はくさい	ねぎ	じゃがいも	たまねぎ	れんこん	鍋・やかん(参考)
北海道	97.1	90.8	105.7	91.5	92.0	75.4	98.3	87.6	89.8	104.7	56.7	91.8
東北	78.5	100.4	92.6	79.9	98.2	85.9	75.5	74.1	71.5	90.0	63.0	85.6
関東	114.3	112.0	109.7	116.5	118.0	112.6	89.6	104.3	102.0	102.8	102.8	100.8
北陸	91.4	102.2	103.5	100.7	100.3	95.7	98.5	83.8	103.3	90.5	122.7	94.0
東海	91.1	93.2	89.2	93.5	85.0	93.7	91.1	100.3	98.2	86.2	104.2	106.1
近畿	102.0	105.2	105.5	102.8	91.0	95.4	133.9	120.2	111.8	110.7	124.5	102.9
中国	94.5	89.8	89.9	79.8	85.3	101.3	109.3	101.4	101.3	95.6	119.1	103.3
四国	80.6	76.0	80.4	79.2	79.1	88.5	106.3	91.3	85.1	85.5	86.2	82.3
九州	83.6	74.2	82.0	81.5	88.7	94.0	104.6	85.8	101.1	101.2	81.0	106.5
沖縄	99.5	82.5	98.1	65.6	78.7	95.7	81.7	65.5	105.5	125.9	20.2	80.0
静岡市	129.7	112.7	114.7	110.2	100.6	106.6	109.3	135.3	125.8	105.8	143.7	134.6
浜松市	97.4	87.5	94.0	94.0	88.3	86.0	107.2	106.6	114.3	98.0	116.4	112.2
備考 (特に多い地域)	静岡市は2位、関東で多い	関東で多い	東日本～近畿まで多い	関東で多い	関東で多い	関東で多い	近畿以西で多い	静岡市は1位、近畿で多い	静岡市は1位、近畿で多い	近畿、九州沖縄で多い	静岡市は5位、近畿、北陸で多い	東海以西で多い

全国=100

～110

～120

120以上

総務省「家計調査年報」をもとに作成

図表 13 主な野菜の出荷量上位都道府県の消費支出

レタス						はくさい						トマト					
出荷量		消費支出				出荷量		消費支出				出荷量		消費支出			
順位	都道府県	%	都市	全国比	順位	順位	都道府県	%	都市	全国比	順位	順位	都道府県	%	都市	全国比	順位
1	長野	38.0	長野市	85.0	46	1	茨城	31.6	水戸市	74.9	50	1	熊本	18.6	熊本市	85.4	44
2	茨城	15.5	水戸市	90.5	34	2	長野	28.8	長野市	78.9	48	2	北海道	8.6	札幌市	96.5	30
3	群馬	8.5	前橋市	99.9	19	3	北海道	3.6	札幌市	107.4	18	3	茨城	6.8	水戸市	80.7	48
4	長崎	5.3	長崎市	98.7	21	4	群馬	3.0	前橋市	71.4	51	4	愛知	6.5	名古屋市	114.9	10
5	兵庫	4.6	神戸市	104.6	15	5	長崎	2.7	長崎市	120.6	10	5	千葉	5.3	千葉市	122.8	4
6	静岡	3.5	静岡市	129.7	2	6	栃木	2.4	宇都宮市	84.9	44	6	栃木	5.1	宇都宮市	109.0	14
			浜松市	97.4	26	7	大分	2.3	大分市	102.2	28	7	群馬	3.3	前橋市	120.4	5
7	福岡	3.2	北九州市	112.1	38	8	鹿児島	2.3	鹿児島市	101.9	29	8	福島	3.3	福島市	97.8	28
			福岡市	101.9	8	9	愛知	2.3	名古屋市	104.3	22	9	岐阜	3.3	岐阜市	87.1	40
8	熊本	2.8	熊本市	74.1	18	10	兵庫	2.1	神戸市	137.0	4	10	宮崎	2.7	宮崎市	86.0	42
9	北海道	2.6	札幌市	108.2	52												
10	香川	2.6	高松市	88.2	12												

注1) 出荷量は平成29年の全国シェア（%）、消費支出は全国=100（平成27～29年平均）

注2) 消費支出順位は、調査対象52都市中の順位

総務省「家計調査年報」をもとに作成

ブロッコリー、トマト、きゅうりなど、サラダや洋食に使われるものが多い。一方、後者には、はくさい、ねぎ、れんこんなど、鍋物・煮物や和食に使われるものが目立つ。関連する品目では、ドレッシングは関東、鍋・やかんは東海以西の西日本で多いというデータもあり、野菜の食べ方については、関東ではサラダ類、西日本では鍋物を好む傾向があるといえそうだ。

県内2市については、静岡市は、東日本で好まれるもの、西日本で好まれるものいずれも平均以上となっており、全体的に野菜の消費支出が多く、日本の東西双方の嗜好を有している。一方、浜松市は、東日本で好まれるものはいずれも平均以下で、東海地方や西日本に近い嗜好であるといえる。

また、野菜に関しては、いずれの品目も生産地と消費地の関連性は薄く、生産地だからといって消費水準が高いとは限らず、むしろ低いことも多い(図表13)。たとえば、西日本で好まれるはくさいは、北関東の出荷量上位2県で国

内シェア6割以上を生産しているが(茨城県31.6%、長野県28.8%)、これらの県庁所在市における消費水準は、いずれも52都市中の下位5市に含まれる(水戸市74.9:50位、長野市78.9:48位)。これは、「適地適作・大産地育成」施策により野菜の安定供給を図ってきた我が国の農業政策による影響が大きいとみられる。

### ⑤果物

県内は、みかんが比較的多いが全体的に少なめ

果物は、全体的に関東や東北など東日本での消費支出が多く、静岡市、浜松市とも果物の消費は少ないが、魚介類に次いで生産地周辺での消費支出が大きい傾向がある(図表14)。特にその傾向が顕著なのがりんごであり、青森県が出荷量のシェアで6割近くを占めるのに対して、消費支出上位5市には、青森市を含む周辺の東北4市が含まれ、出荷量および消費支出の上位5県(5市)の顔ぶれは4つまで一致している(図表15)。

メロンは、出荷量上位2道県(茨城県、北海

図表14 果物類の消費支出

(全国=100、平成27~29年平均)

地方	果物	産地近辺の消費支出が多い					東日本または西日本で多い			
		りんご	メロン	ぶどう	桃	梨	みかん	グレープフルーツ	いちご	バナナ
北海道	96.7	101.2	259.9	63.2	66.4	43.5	108.0	112.5	81.0	106.3
東北	107.6	133.5	116.2	80.5	124.8	104.0	103.1	119.7	102.3	97.1
関東	109.4	107.4	99.0	108.0	111.0	116.0	107.9	142.4	115.7	96.1
北陸	98.7	98.3	80.6	91.7	72.1	161.2	111.1	126.4	95.2	100.0
東海	91.8	87.6	87.4	90.2	91.8	87.2	95.2	70.0	99.5	102.5
近畿	98.0	96.9	76.2	103.4	112.0	76.0	97.3	81.1	98.9	108.9
中国	100.1	98.1	85.6	146.5	139.7	127.3	88.4	48.7	91.1	110.3
四国	90.7	83.5	76.6	98.9	93.5	96.8	104.7	25.0	81.3	101.5
九州	81.4	80.9	107.5	88.5	47.0	85.5	80.4	39.6	71.3	90.9
沖縄	71.2	59.6	36.2	42.5	19.3	35.6	67.3	74.3	41.6	88.1
静岡市	85.2	77.3	68.1	86.6	74.0	69.6	109.3	67.7	102.9	90.5
浜松市	88.7	83.1	121.2	75.3	54.6	96.8	112.6	48.1	89.7	87.5
主な産地 (シェア 上位県)	—	青森 長野	茨城 北海道 熊本	山梨、長野 山形、岡山	山梨 福島 長野	千葉 茨城 栃木	和歌山、 愛媛、熊本 静岡	—	栃木、福岡 熊本、静岡	—

全国=100      ~110      ~120      120以上

総務省「家計調査年報」、農林水産省「作物統計」をもとに作成

道) の水戸市と札幌市がそのまま消費支出上位 2 市となっており、消費水準も全国平均の 2 ~ 3 倍以上とかなり高い。出荷量 3・4 位の熊本県、青森県についても、消費支出で熊本市、青森市がそれぞれ 4 位、5 位につけている。このようにメロンの生産地における消費は局所的ではあるが、全体的に北日本で好まれている。出荷量 8 位の静岡県は、「温室メロン」に限れば全国 1 位の出荷量であり、主に袋井市など県西

部で栽培されているが、東海地方以西では生産地に近い浜松市で、例外的に消費水準が高い。

同様に、久能山周辺の「石垣いちご」で知られるいちごは、静岡県は出荷量 4 位であるが、消費支出を見ると、静岡市は平均を上回るが、出荷量 1 位の栃木県の宇都宮市をはじめ千葉市、横浜市など主に関東地方で好まれている。

みかんについては、出荷量上位 2 県(和歌山県、愛媛県)の和歌山市や松山市が、消費支出

図表 15 主な果物のお荷量上位 10 都道府県および消費支出上位 10 都市

順位	りんご			メロン				いちご			
	都道府県	%	消費支出	都道府県	%	都市	全国比	都道府県	%	都市	全国比
1	青森	57.4	盛岡市 185.7	茨城	26.6	水戸市 353.3		栃木	15.7	千葉市 135.2	
2	長野	19.8	福島市 171.4	北海道	16.2	札幌市 253.4		福岡	11.3	宇都宮市 134.5	
3	山形	6.3	長野市 161.3	熊本	13.6	秋田市 177.4		熊本	6.9	横浜市 133.8	
4	岩手	5.2	青森市 153.0	青森	6.5	熊本市 150.7		静岡	6.6	東京都区部 133.5	
5	福島	3.6	秋田市 143.8	山形	6.4	青森市 135.9		愛知	6.3	前橋市 128.6	
6	秋田	3.2	松江市 119.9	千葉	5.7	福井市 128.5		長崎	6.2	奈良市 121.1	
7	群馬	1.2	千葉市 113.1	愛知	5.6	浜松市 121.2		茨城	5.6	名古屋市 121.0	
8	北海道	1.1	奈良市 112.8	静岡	5.2	千葉市 109.0		佐賀	5.3	新潟市 118.5	
9	宮城	0.4	横浜市 109.9	秋田	1.7	大津市 105.5		千葉	4.2	さいたま市 113.3	
10	岐阜	0.2	山形市 109.4	鳥取	0.6	新潟市 104.4		宮城	2.7	松江市 112.0	

注) 出荷量は平成 29 年の全国シェア (%)、消費支出は全国=100 (平成 27 ~ 29 年平均)

総務省「家計調査年報」、農林水産省「作物統計」をもとに作成

図表 16 みかんの出荷量と消費支出

順位	出荷量		消費支出		全国 = 100	~ 110	~ 120	120 以上
	都道府県	(%)	都市	全国比				
1	和歌山	19.7	松山市	152.2				札幌市 92.9
2	愛媛	16.5	福井市	122.1				青森市 97.8
3	熊本	11.9	さいたま市	119.3				秋田市 94.3
4	静岡	10.8	和歌山市	117.0				盛岡市 92.5
5	佐賀	7.1	千葉市	116.3				仙台市 106.2
	佐賀市 83.3	山口市 79.2	松江市 99.8	鳥取市 79.7				福井市 122.1
	長崎市 84.7	北九州市 83.1	広島市 77.1	岡山市 89.1				金沢市 109.9
	熊本市 79.0	福岡市 72.2	高松市 90.1	徳島市 84.2				富山市 109.2
	鹿児島市 90.7	大分市 92.9	松山市 152.2	高知市 101.0				宇都宮市 115.7
	那覇市 77.8	宮崎市 80.4						前橋市 111.3
								水戸市 104.6
								大津市 106.1
								長野市 89.5
								さいたま市 119.3
								千葉市 116.3
								岐阜市 78.8
								甲府市 111.2
								川崎市 91.9
								東京都区部 107.7
								相模原市 109.8
								横浜市 115.5
								和歌山市 117.0
								浜松市 112.6
								静岡市 109.3

注) 出荷量は平成29年の全国シェア、消費支出額は平成27～29年平均  
総務省「家計調査年報」、農林水産省「作物統計」をもとに作成

上位5市に含まれているが、出荷量第3位の熊本県以下、産地である九州各地ではさほど消費されていない（図表16）。出荷量4位の静岡県では、比較的高い水準で消費されているが、産地ではない関東地方や北陸地方での消費支出が目立っている。かつて、紀州産のみかんが江戸に海上輸送され、江戸の庶民に好まれていた、といわれるが、その名残が現在も続いているとみることもできる。

### ⑥調理食品・酒類・外食

県内は、調理食品支出が多く、酒・外食は控えめ

調理食品は、全体的に関東、北陸での消費水準が高いが、県内2市とも支出が多く（図表17）、調理食品全体の消費水準は、静岡市（121.5）が日本一、浜松市（116.9）は52都市中で4位である（図表4参照）。浜松市は、うなぎのかば焼き（241.2）、ぎょうざ（201.1）については日本一で、また両市ともサラダや天ぷら・フライなどの消費支出も多い。両市では、米の支出が多いことも合わせ、調理食品や惣菜を買って自宅でご飯を炊いて食べる、いわゆる「中食」を多用する傾向のあることがうかがわれる。

酒類については、北陸、東北で支出が多く、主に清酒、次いでビールなどが好まれている。また、焼酎については、東北のほか、九州、中国で消費水準が高い。県内2市については、静岡市のビールが平均以上である以外は、酒類の消費は全体的に控えめで、浜松市では全国比で72.6と特に少ない。

外食については、関東、東海での消費水準が高い。東海では、喫茶代が全国比187.6と際立っているが、飲酒代は少ない。北陸は、外食全体の消費支出は多くないが、飲酒代については、全国比120.9と、地方別では最大である。県内2市については、静岡市の食事代が平均以上である以外は、外食は全体的に控えめである。

このように県内2市は、ともに、米や調理食品による中食を多用しつつ、飲酒や外食は控えめな、堅実な食生活がうかがわれる。

### ⑦東西の違いが顕著な品目

静岡県は東西食文化の転換点・融合点

図表18では、食関連の主な品目について、全国=100とする消費支出を青森市から鹿児島市に至る東西南北の主要幹線に沿って並べてみ

図表17 調理食品、酒類、外食の消費支出

地方	調理食品	調理食品				酒類	酒類			一般外食	外食		
		うなぎのかば焼き	サラダ	天ぷら・フライ	ぎょうざ		清酒	焼酎	ビール		食事代	喫茶代	飲食代
北海道	75.6	50.1	66.2	94.4	78.4	107.5	96.7	92.9	113.5	73.6	69.3	46.9	115.0
東北	95.7	66.3	104.4	112.5	94.2	116.0	139.1	125.5	114.1	70.4	67.3	45.3	101.9
関東	107.0	101.2	121.7	102.1	103.7	99.5	101.5	93.9	94.4	114.6	114.9	105.3	115.5
北陸	111.3	86.5	115.8	139.9	103.6	119.2	155.3	89.4	122.6	91.7	88.4	76.5	120.9
東海	97.9	127.8	86.2	100.9	99.1	82.9	81.2	75.3	88.9	109.4	110.4	187.6	75.6
近畿	101.2	133.7	96.5	90.5	107.2	100.5	104.4	84.2	109.9	100.9	103.1	113.6	80.7
中国	100.0	84.3	90.0	95.4	89.7	109.1	101.0	134.3	101.5	85.0	86.3	70.1	80.2
四国	92.9	84.5	74.9	92.4	94.6	95.9	81.9	86.7	102.0	88.0	87.5	79.6	94.8
九州	86.8	77.6	65.5	89.0	97.0	97.9	76.5	151.1	93.9	85.7	84.6	55.7	104.0
沖縄	93.0	46.8	68.7	111.7	85.0	73.7	18.2	91.5	76.9	62.2	62.4	42.6	67.4
静岡市	121.5	119.4	141.9	126.8	113.6	94.1	78.1	95.5	104.6	99.2	100.6	69.5	99.2
浜松市	116.9	241.2	117.2	110.3	201.1	72.6	76.0	78.5	87.9	90.3	94.3	76.0	65.5
備考 (特に多い地域)	静岡県、北陸で多い	静岡県～近畿で多い	静岡県、関東、北陸で多い	静岡県、北陸、東北で多い	静岡県、近畿、関東で多い	東北、北陸で多い	東北、北陸で多い	東北、中国、九州で多い	東北、北陸で多い	関東、東海で多い	関東、東海で多い	東海、近畿で多い	北陸、関東、北海道で多い

全国=100      ~110      ~120      120以上

総務省「家計調査年報」をもとに作成

た。現在はこの上を新幹線や高速道路が走り、また近代化以前は江戸や京へ通じる街道であった我が国の国土軸である。ここから、東西で嗜好性に一定の傾向があることがわかる。

たとえば、酒類のウイスキー、果物のグレープフルーツは、横浜市以東の東日本で好まれており、静岡市以西では消費水準は低い。調理食品の中では、サンドウィッチやホットドッグなどの調理パン、やきとりが、東京を中心とする関東地方で消費水準が高い。いずれも県内では静岡市まで、特にやきとりは静岡市が全国3位の消費支出となっている。また、サラダについては、同様に関東地方での消費水準が高いが、県内では浜松市までが“勢力圏”である。

また、静岡市で支出が日本一であるまぐろ、しらす干し、緑茶は、生産量が静岡県が日本一であるが、静岡県以東、関東地方での支出が多い。また、うなぎは、浜名湖が養殖ウナギの発

祥地とされ、現在は鹿児島など九州、四国が主たる生産地であるが、うなぎのかば焼きの消費支出は東京から大阪までの東海道沿線が突出している。うなぎについては、関東では背開きで蒸してから焼く、関西では腹開きで直接焼く、といったように、関東、関西で独自の食文化が成立しているが、駄弁として販売されていることもあり、食文化が東海道沿いに伝承された様子もうかがえる。

同様に、静岡市で支出が日本一である他の魚肉練製品は、東海地方を中心に関東地方での消費支出が多い。他の魚肉練製品とは、はんぺん、しんじょ、だて巻、魚肉ソーセージなどであり、静岡市では黒はんぺんが好まれていると思われるが、地域によって主に支出されている内容が異なる可能性がある。同じ練製品でも、ちくわは西日本の方で好まれており、浜松市では産地（豊橋）に近いのか消費水準が高いが、静岡

図表 18 国土軸上東西による消費嗜好の違い

	都市	東日本で多い											
		ウイスキー	グレープフルーツ	ベーコン	チーズ	調理パン	やきとり	納豆	わかめ	サラダ	カツレツ	緑茶	干しあじ
東北	青森市	201.7	102.6	113.1	80.4	82.3	193.0	133.0	103.0	85.3	97.8	52.0	48.8
	盛岡市	171.2	151.9	106.4	101.9	88.1	99.5	148.1	188.1	95.3	101.9	95.3	68.3
	仙台市	179.1	155.1	113.3	112.7	97.3	95.0	125.4	139.3	113.2	112.1	106.9	61.6
	福島市	130.4	129.9	110.4	109.8	109.8	116.7	160.0	121.1	132.3	119.0	86.6	72.2
	宇都宮市	125.1	144.9	99.6	105.8	124.5	107.5	134.6	119.5	135.5	126.2	115.9	99.6
	さいたま市	172.3	192.5	106.3	119.8	121.7	136.2	121.0	123.4	127.2	124.2	130.3	138.2
東海	東京都区部	127.3	178.5	105.9	136.8	141.1	134.8	105.3	105.9	147.9	122.5	116.8	137.5
	川崎市	117.4	168.4	114.9	126.5	146.5	125.2	104.0	103.0	147.9	111.4	114.7	132.7
	横浜市	158.1	183.3	125.6	139.2	128.2	130.7	110.2	128.0	118.3	101.6	141.7	190.5
	静岡市	81.9	67.7	110.0	111.5	116.5	148.5	104.1	119.1	141.9	118.4	230.5	163.4
	浜松市	71.3	48.1	98.3	98.6	92.7	84.4	99.5	111.3	117.2	109.5	154.7	116.8
	名古屋市	80.8	108.9	91.8	101.8	119.4	70.9	84.1	97.7	89.3	91.7	84.3	103.4
	岐阜市	60.2	98.3	91.8	86.6	85.8	63.6	91.2	88.1	82.4	81.4	70.9	92.8
	大津市	87.2	92.3	100.9	106.4	95.8	67.3	91.7	93.7	103.3	98.9	81.5	83.4
	京都市	63.4	122.7	99.2	104.6	104.5	71.5	77.9	80.6	93.7	109.4	104.6	74.0
	大阪市	76.1	92.1	74.6	88.6	94.3	90.6	66.6	71.1	127.2	105.7	71.4	57.2
山陽・九州	神戸市	98.6	103.8	90.9	103.9	83.4	74.0	65.8	84.5	101.2	99.2	73.2	56.2
	岡山市	63.5	60.3	102.9	96.2	96.8	95.0	76.3	83.1	88.1	76.1	53.2	44.7
	広島市	129.4	47.7	104.0	103.2	97.2	92.4	77.3	89.0	89.9	85.4	61.9	45.9
	山口市	66.3	50.0	109.4	90.5	104.6	96.6	82.1	72.6	82.9	72.3	66.7	68.5
	北九州市	59.7	62.5	98.5	74.4	86.2	59.6	97.4	90.9	63.3	61.4	126.7	73.6
	福岡市	66.7	57.8	103.4	92.7	99.6	64.2	99.2	87.7	67.9	59.7	116.4	59.1
	熊本市	86.9	35.0	94.8	79.0	80.8	60.0	112.7	88.7	75.7	69.3	124.1	56.4
鹿児島市	31.7	51.1	85.8	76.1	70.3	75.7	93.7	81.5	67.1	90.5	181.9	82.9	
備考 (特に多い地域)		神奈川以東		静岡市まで					浜松市まで				

全国 = 100      ~110      ~120      120以上

市以東ではさほど好まれていない。

たいについては、西日本で好まれる食材の代表格であるが、東西の消費水準の格差が非常に大きく、東日本で好まれるまぐろとは、棲み分けが成立している感がある。

このほか、東北、北関東で消費の多い納豆は西へ行くほど減少し、全国平均 (= 100) を上回るのは静岡市まで、浜松市以西で平均以下となる。同様に、お好み焼きなどに使われるソースは、広島市が最も多いが、東へ向かうにつれて消費支出は減少しており、平均を上回るのは静岡市以西である。

このように、食関連の費目については、産地や食文化により東西で嗜好の分かれる品目が多く、静岡県については、転換点あるいは融合点となっている品目が目立つ。

ところで、関東を中心とする東日本で好まれている品目には、ウイスキー、ベーコン、サラ

ダなど、欧米由来の比較的歴史の新しい食品が目につく。図表18で掲げたもの以外にも、野菜の消費支出で紹介したレタス、ブロッコリー、トマトなども関東地方で好まれていた。また、デザートとして供されることの多い果物も東日本の消費支出が多かった。これは、①東京が日本一の大都市になったのは江戸時代以降であり、参勤交代等により、西日本を含む全国から人が集まっていたことから、異質なものにも許容性のある比較的オールマイティーな食文化が醸成された、②近代化以降に日本に入ってきた新しい品目は、まず首都であり、かつ最大の市場である東京から普及が進んだ、といった理由が考えられる。関東を中心とする東日本の消費嗜好のひとつの特徴であるともいえる。

対照的に西日本は、鯖街道や鍋料理、瀬戸内海地方のたこなど、日本の伝統的な和食文化が比較的伝承されているといえよう。

	都市	静岡県周辺で多い					西日本で多い						
		うなぎのかば焼き	まぐろ	しらす干し	他の魚肉練製品	魚介のつくだ煮	さば	はくさい	すし(弁当)	ソース	ちくわ	牛肉	たい
東北	青森市	51.3	84.0	45.7	102.1	50.9	90.9	93.1	101.6	92.5	104.1	63.0	40.7
	盛岡市	71.4	109.5	57.4	75.3	69.2	66.6	88.0	96.3	81.3	86.9	47.7	39.9
	仙台市	79.4	115.2	79.7	95.7	80.6	52.8	99.2	102.4	81.5	66.3	56.8	36.3
	福島市	63.5	139.0	100.3	133.2	120.7	56.6	89.7	97.5	82.0	77.4	54.4	44.5
	宇都宮市	94.2	158.7	115.2	106.2	94.3	75.3	84.9	92.9	87.6	70.7	73.9	42.6
	さいたま市	97.5	140.5	122.1	113.6	128.5	107.3	92.6	96.8	83.3	81.3	78.3	70.3
東海道	東京都区部	128.1	154.8	123.7	114.7	107.4	87.4	99.9	106.7	89.3	69.9	110.0	103.0
	川崎市	116.2	141.8	127.8	118.8	99.1	81.4	99.7	92.9	88.9	73.0	88.5	60.3
	横浜市	117.0	164.5	144.3	131.0	128.1	93.8	103.2	90.9	91.7	89.4	114.3	85.8
	静岡市	119.4	235.6	320.4	204.2	161.2	109.1	109.3	124.5	101.9	72.8	73.5	46.3
	浜松市	241.2	129.6	175.8	138.6	139.2	129.8	107.2	106.3	108.0	121.7	49.1	47.9
	名古屋市	127.8	113.1	90.2	153.6	114.9	98.3	104.3	112.4	106.5	118.4	105.5	84.1
	岐阜市	125.8	91.7	108.0	129.1	135.9	106.0	86.6	88.8	94.9	115.2	98.9	69.6
	大津市	159.8	57.1	154.1	75.0	186.2	112.5	124.5	113.5	103.4	123.3	166.5	172.1
	京都市	161.4	62.5	174.4	69.9	188.4	111.9	140.4	119.4	113.0	109.9	175.7	177.3
	大阪市	137.9	78.2	117.7	62.3	104.8	95.0	137.5	121.8	116.4	116.6	155.6	164.3
山陽・九州	神戸市	118.9	62.8	90.0	55.1	129.9	96.8	137.0	114.8	123.5	117.7	150.2	192.2
	岡山市	85.4	36.6	71.6	74.5	70.6	109.0	118.5	101.2	161.5	104.7	124.2	141.6
	広島市	93.6	38.5	37.4	69.7	54.8	123.2	119.2	106.9	163.7	99.8	136.2	167.0
	山口市	54.9	33.0	49.8	92.1	44.8	135.3	103.5	91.2	116.8	138.7	133.7	209.2
	北九州市	99.7	23.6	47.0	84.6	62.6	149.1	122.5	89.6	101.6	117.8	152.6	208.5
	福岡市	80.0	30.3	57.4	79.0	57.6	129.3	110.6	70.9	91.5	96.1	125.4	194.4
	熊本市	64.8	49.4	37.8	64.5	54.9	115.1	82.1	86.6	79.6	108.8	123.7	237.4
鹿児島市	104.9	44.8	33.7	57.4	74.0	161.1	101.9	78.6	84.4	73.2	102.1	167.9	
備考 (特に多い地域)	東海道沿線	東北～名古屋	関東～近畿	関東～東海	関東～近畿	静岡市以西				浜松市以西	近畿以西		

総務省「家計調査年報」をもとに作成

### 3. 生活財、文化に関する支出の比較

#### 静岡県はスポーツ、浜松市は音楽

##### ①気象条件による違い

##### 冷暖房、光熱関連費目に影響

食以外の消費支出のうち、生活用品や耐久消費財などについては、品目によっては、各地域の気象条件に影響を受けることが予想される。そこで、都市別の消費水準（全国=100）について、アメダス（気象庁）の気象データ平年値との相関性分析を試み、気象条件と消費支出の関連性を考察した。使用した気象データは、気温（年平均、1月平均、8月平均）、年間日照時間、最深積雪である（図表19）。なお、年間降水量、年平均風速についても分析を試みたが、消費支出との明確な相関性は認められなかった。気象データの制約から、対象都市は47県庁所在都市とした（一部、データのない都市については同県内他都市で代用）。また、相関性については、弱い相関性があるとされる「絶対値0.3以上」の費目をピックアップした（20頁解説参照）。符号がプラスの場合は「正」の相関性（例：気温が高い方が消費

支出が大きくなる傾向がある）、マイナスの場合は「負」の相関性（例：気温が低い方が消費支出が大きくなる傾向がある）があることを示している。

気象条件と相関性があるのは、全体的に、冷暖房器具や水道光熱の関連費目が多く、なかでもストーブ・温風ヒーターは年平均気温との相関係数が-0.754と「負」の相関性が強く、年間通じて冷涼な地方での支出が多いことを示している（図表20）。エアコンディショナは、8月の平均気温が高い地方で支出が多い。灯油については、気温との「負」の相関も強いが、最深積雪の相関係数が0.889と最も大きく、寒冷地というよりも豪雪地での支出が多い傾向がある。また、日照時間の短い地域では、降雨、積雪などの荒天に伴う洗濯、洗浄、融雪、屋根や外壁の修理といった必要性からか、上下水道料、修繕材料の支出が多い。

このほかに目立つのは、輸送機器、運動用具など野外での活動に関する費目である。自

**自動車以外の輸送機器購入**（バイク、スクーター、クルーザー等）は、1月の気温、8月の気温、日照時間、最新積雪と、いずれも弱い相関性がみられたが、年平均気温の相関性が最も大きく、年間を通して温暖な気候が、バイク等に好んで乗る要因になっている様子がうかがわれる。一方、寒冷地では、スタッドレスタイヤなどの**自動車等部品**、修理、点検などの**自動車整備費**が多くなる。**運動用具類**については、8月の平均気温が低い地域で多いという傾向があり、夏季の過ごしやすい気候がスポーツへの意欲に結び付いていることが考えられる。

図表19 地方別の主な都市の気象データ

（平年値：1981～2010年の平均）

地方	都市	年平均 気温 (℃)	1月平均 気温 (℃)	8月平均 気温 (℃)	年日照 時間 (時間)	最深積雪 (cm)
北海道	札幌市	8.9	△ 3.6	22.3	1,740	100
東北	仙台市	12.4	1.6	24.2	1,796	17
関東	東京都区部	15.4	5.2	26.4	1,877	6
北陸	金沢市	14.6	3.8	27.0	1,681	44
東海	名古屋市	15.8	4.5	27.8	2,092	8
近畿	大阪市	16.9	6.0	28.8	1,996	2
中国	広島市	16.3	5.2	28.2	2,042	6
四国	松山市	16.5	6.0	27.8	2,017	2
九州	福岡市	17.0	6.6	28.1	1,867	3
沖縄	那覇市	23.1	17.0	28.7	1,774	0
静岡県	静岡市	16.5	6.7	27.0	2,099	0
	浜松市	16.4	6.0	27.5	2,179	-

資料：気象庁

図表 20 気象条件による消費支出の違い

気象条件と支出の相関	年平均気温					1月平均気温			8月平均気温		
	高い方が多い		低い方が多い			低い方が多い			高い方が多い	低い方が多い	
地方	自動車以外の輸送機器購入	洗剤	ストーブ・温風ヒーター	洗濯代	自動車等部品	自動車整備費	切り花	パーマネット代	エアコンデシヨナ	運動用具類	
北海道	0.0	83.1	242.1	104.7	143.1	83.7	97.9	151.7	30.9	115.9	
東北	14.1	97.3	173.0	105.0	127.7	122.8	138.9	105.9	47.0	92.2	
関東	97.3	99.7	84.1	114.1	92.4	96.9	98.2	99.1	108.8	105.1	
北陸	136.2	104.8	137.9	95.0	135.9	128.9	101.2	120.9	96.0	99.2	
東海	104.7	104.0	81.9	87.6	124.8	119.3	94.5	87.2	109.9	107.6	
近畿	122.3	97.7	95.4	92.9	74.9	78.5	105.3	99.8	117.8	93.8	
中国	105.0	99.7	95.7	89.3	104.6	118.0	103.0	81.3	134.5	85.8	
四国	178.7	105.8	87.9	89.1	103.4	111.5	91.1	113.8	105.2	98.2	
九州	128.7	104.8	76.6	87.8	89.4	94.6	86.0	96.0	75.1	93.6	
沖縄	91.0	108.4	15.8	35.6	53.8	57.7	39.4	50.5	80.5	68.3	
静岡市	404.2	107.6	58.8	112.8	91.7	86.9	91.3	56.0	80.5	110.9	
浜松市	37.3	105.0	61.4	92.9	102.5	119.3	66.3	37.7	85.6	86.2	
相関係数	年平均気温	0.419	0.301	△0.754	△0.475	△0.513	△0.365	△0.403	△0.353	0.273	△0.376
	1月平均気温	0.393	0.288	△0.718	△0.449	△0.499	△0.374	△0.404	△0.354	0.239	△0.366
	8月平均気温	0.406	0.284	△0.737	△0.403	△0.490	△0.274	△0.290	△0.344	0.358	△0.399
	日照時間	0.401	0.205	△0.589	△0.343	△0.280	△0.143	△0.275	△0.141	0.216	0.064
	最深積雪	△0.399	△0.112	0.732	0.249	0.391	0.166	0.151	0.164	△0.352	0.152

気象条件と支出の相関	日照時間						最深積雪				
	長い方が多い			短い方が多い			大きい方が多い			少ない方が多い	
地方	シャツ・セーター類	有料道路料	自転車購入	石けん類・化粧品	上下水道料	修繕材料	電気代	灯油	温泉・銭湯入浴料	自動車以外の輸送機器整備費	
北海道	95.6	47.0	84.8	93.1	95.8	119.1	104.2	514.6	176.6	40.7	
東北	80.6	71.2	46.2	84.6	121.2	110.3	110.2	306.1	123.4	45.4	
関東	108.9	106.7	110.2	103.3	101.0	106.2	95.4	60.3	83.2	112.1	
北陸	93.4	90.5	75.1	95.7	118.6	133.5	121.0	177.4	144.7	66.8	
東海	107.6	121.4	118.5	101.4	91.7	93.3	100.8	71.2	118.0	90.1	
近畿	96.8	100.8	120.4	101.5	98.9	80.0	102.3	38.5	91.0	130.6	
中国	89.5	97.5	109.7	108.0	98.7	80.8	98.3	70.9	74.2	112.8	
四国	104.4	124.6	83.4	103.6	91.3	90.6	110.4	61.4	103.7	106.2	
九州	90.9	96.5	68.2	96.3	92.9	103.8	93.7	65.3	110.4	89.8	
沖縄	58.0	31.4	23.6	71.0	86.9	95.7	95.0	45.7	18.1	40.8	
静岡市	100.1	101.5	143.4	105.5	99.4	79.6	102.7	35.0	62.6	202.3	
浜松市	100.1	104.2	109.2	101.9	97.9	67.5	97.6	49.3	68.4	121.4	
相関係数	年平均気温	△0.067	0.154	0.053	0.133	△0.378	△0.229	△0.346	△0.808	△0.454	0.332
	1月平均気温	△0.100	0.111	0.008	0.081	△0.373	△0.226	△0.342	△0.752	△0.487	0.272
	8月平均気温	0.005	0.237	0.141	0.262	△0.323	△0.149	△0.241	△0.847	△0.348	0.392
	日照時間	0.315	0.411	0.438	0.385	△0.481	△0.412	△0.446	△0.606	△0.186	0.388
	最深積雪	△0.255	△0.399	△0.310	△0.320	0.252	0.264	0.487	0.889	0.542	△0.467

全国 = 100      ~110      ~120      120以上

太字 は相関係数の絶対値が最大である気象条件

総務省「家計調査年報」をもとに作成

洗剤については、年平均気温と弱い「正」の相関性があり、年間を通して温暖な気候が野外での活動や発汗により、家庭で洗濯をする機会に結び付いていると考えられる。逆に寒冷地では、厚手の衣服を着る機会が多いためかクリーニングなどの洗濯代が多くなる傾向がある。

また、日照時間の長い地域では、有料道路料や自転車購入など、ドライブ、サイクリング等の野外活動を促し、より活動しやすい衣服であるシャツ・セーター類の着用、帰宅後の石けん・化粧品の使用につながっている様子もうかがわれる。

静岡県の2市については、年平均気温は四国並み、1月平均気温は四国・九州並み、8月平均気温は西日本のいずれの地方よりも低く、日照時間は全国トップレベルで積雪はない、と気象条件には非常に恵まれている（図表19参照）。

図表20に掲げた費目の中では、静岡市の二輪車・自転車関連費目（自動車以外の輸送機器購入、自転車購入、自動車以外の輸送機器整備費）と運動用具類、浜松市の自動車関連費目（自動

車整備費、有料道路料）が目立っている一方で、2市とも冷暖房、光熱関連の費目はいずれも全国平均を大幅に下回る品目が多い。

すなわち、冷暖房機器、灯油など、気象条件に由来するコスト負担が少ない一方で、年間を通じて過ごしやすい気候により、自動車、自転車、スポーツなど、屋外型のアクティブな消費行動に適した立地条件にあるといえる。

## ②都市規模による違い

### 費目によって大都市型と地方型に大別

生活、文化関連支出については、都市規模が大きくなるほど支出も増える大都市型の支出費目と、その逆の地方型の支出費目のいずれかに大別されるものが多い（図表22）。全体的に大都市型の支出費目の方が多く、十大費目でみても住居や被服及び履物、教育などは、特に大都市での消費水準が高いが（図表3参照）、個別の費目でみると、それぞれの消費環境によって、大都市型の支出費目と地方型の支出費目が混在している。

費目別にみていくと、「住居」では、持家率

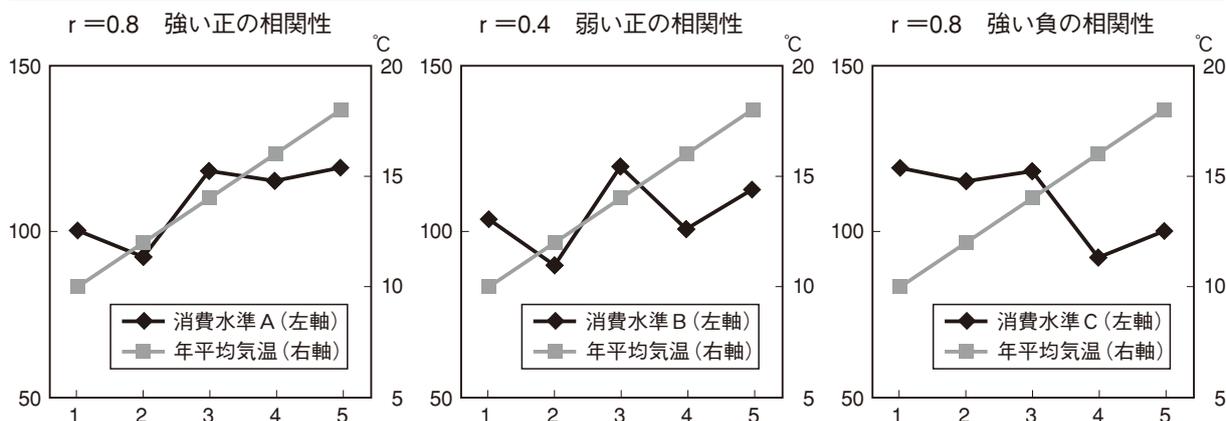
### <解説> 相関係数について

気象データと消費水準の相関性分析に際しては、気象データについては対象47都市の平年値、消費水準については品目ごとの全国=100とする指数の相関係数を計算した。

相関係数  $r$  は、 $1 \geq r \geq -1$  の範囲となり、1に近いほど正の相関性が強く、0に近いほど相関性は弱い。また、 $r$  が-1に近ければ、逆方向に連動する負の相関性が強いことを示す。

相関性の強弱の目安について、ここでは、 $r$ （絶対値） $\geq 0.7$ で強い相関性あり、 $0.7 > r \geq 0.5$ でやや強い相関性あり、 $0.5 > r \geq 0.3$ で弱い相関性あり、 $0.3 > r$ で相関性なし、とした。

図表21 相関係数の例



の低い大都市では家賃地代の負担が大きく、一方、持家率の高い地方都市では住宅の修復に用いるブロック、ベニヤ板などの修繕材料の支出が発生する。

「光熱・水道」では、電気代は地方で、ガス代は大都市で大きくなる傾向がある。

「家具・家事用品」では、食卓セット、応接セットなどの一般家具は大都市の方が支出が大きいが、地方では浄化槽の清掃代など地方特有の支出負担も発生する。

「被服及び履物」は、全体的に大都市での支出が大きいが、スーツやドレスなど、より高価でファッション性の高い品目を含む洋服でその傾向が強い。

「保健医療」は、全体的に都市階級による差異の少ない費目であるが、個別にみると栄養剤は地方で、歯科診療代は大都市で大きい傾向がある。

「交通・通信」は、大都市と地方では特徴が明確に分かれる費目であり、鉄道運賃などの

交通は大都市で特に大きく、自動車購入、ガソリンなどの自動車等関係費は地方で大きくなる。

「教育」についても、大都市と地方で傾向が明確に分かれ、私立授業料等や補習教育は大都市で特に大きく、国公立授業料等は地方で大きくなる。

「教養娯楽」は、全体的に大都市での支出が大きいが、園芸関連支出については地方の方が支出が大きい。

「その他の消費支出」の中では、バッグなどの身の回り用品は大都市で支出が大きく、交際費や仕送り金は地方で大きくなる傾向がある。

県内2市については、ともに都市階級では大都市に区分されるが、国公立授業料等、仕送り金の負担が大きいという地方の特徴がある。静岡市については、家賃地代、ガス代、補習教育など、大都市・地方の特徴を併せ持っている一方で、浜松市は大都市としての特

図表22 大都市と地方の消費支出の違い（食料を除く十大費目、主な費目の抜粋）

地 方	住 居		光熱・水道		家具・家事用品			被服及び履物			保健医療		
	家賃地代	修繕材料	電気代	ガス代	家事用耐久財	一般家具	清掃代	洋服	シャツ・セーター類	履物類	栄養剤	歯科診療代	
都市階級別	大都市	147.0	83.0	94.7	113.9	99.8	125.6	35.8	119.3	112.1	112.9	87.3	119.9
	中都市	96.4	93.5	99.4	102.4	101.2	95.4	76.8	100.5	103.1	101.1	100.2	100.6
	小都市A	74.8	115.0	102.0	92.4	97.2	89.5	147.2	90.8	94.0	92.2	101.2	91.8
	小都市B・町村	63.1	119.8	107.6	82.3	102.3	80.0	186.5	79.0	81.6	87.1	120.6	76.0
静岡市	152.9	79.6	102.7	122.1	81.1	75.3	42.1	94.7	100.1	93.0	82.8	73.5	
浜松市	74.3	67.5	97.6	97.5	95.7	81.6	78.2	93.3	100.1	101.0	92.4	89.6	

地 方	交通・通信		教 育			教養娯楽				その他の消費支出			
	交通	自動車等関係費	国公立授業料等	私立授業料等	補習教育	教養娯楽用耐久財	運動用具類	園芸関連支出	教養娯楽サービス	身の回り用品	交際費	仕送り金	
都市階級別	大都市	130.7	80.2	86.8	154.4	124.3	110.5	102.0	71.4	116.8	128.1	100.0	72.4
	中都市	96.9	99.8	107.5	111.1	107.3	101.2	98.9	94.5	101.5	97.8	96.3	103.1
	小都市A	90.3	111.2	98.0	62.9	90.4	94.4	102.6	117.1	95.0	87.7	99.6	94.1
	小都市B・町村	66.6	118.1	111.6	39.4	57.0	87.6	94.3	135.1	74.8	73.5	108.1	152.6
静岡市	81.8	93.0	110.4	80.4	126.4	93.8	110.9	78.2	90.2	108.0	96.5	135.1	
浜松市	69.4	145.0	158.8	44.3	106.5	98.6	86.2	102.1	100.7	88.1	89.3	115.8	

太字 は都市階級別で最大、斜字 は最小

全国 = 100    ~110    ~120    120以上

注1) 授業料等は、小学校、中学校、高校、大学の合計

注2) 園芸関連支出は、園芸用植物、園芸用品の合計

総務省「家計調査年報」をもとに作成

徴は見られず、自動車等関係費、国公立授業料等が特に大きく、地方としての特徴が強い。しかし、これ以外の面では、両市とも、大都市としては、全体的に消費支出は控えめな費目が多い。

③その他、地域による特徴がみられる品目  
首都圏での消費水準が高い品目が多い

次に、大都市で支出が大きい被服及び履物、教育、教養娯楽、その他の消費支出に属する品目について、大都市ごとの消費水準を東（北）から西（南）に並べてみると、東西の地域ごとの特徴が表れる品目がみられる（図表23）。

全体的に、首都圏で消費水準が高い費目が多く、男子用洋服、私立授業料等、パーソナルコンピュータ、音楽・映像収録済メディア、国内パック旅行費など、いずれも東京を中心とする首都圏各市で軒並み消費水準が全国平均＝100を大幅に超えている。これは、東京を中心とする首都圏がこれらの品目の最大のマーケットで

あるとともに、その供給者である事業者、そして情報の最大の集積地・発信源であることによるとみられる。また、首都圏以外では、外国パック旅行費については名古屋市、堺市など国際空港に近い都市、スポーツ観覧料については札幌市、仙台市、広島市などプロスポーツの本拠地のある都市、文化施設入場料については名古屋市、京都市など社寺仏閣、水族館、動植物園などの施設の多い都市、遊園地入場・乗物代については名古屋市、大阪市など人気のテーマパーク・遊園地のある都市と、サービス供給源に近い都市で消費水準が高いという傾向がある。

広島市のスポーツ観覧料が突出しているのは、市内にプロ野球、サッカーJ1リーグの2チームがあり、いずれも対象期間中（平成27年～29年）にリーグ優勝を飾るなど、チーム成績が好調だったことも影響していよう。

一方、テレビ、ビデオレコーダー・プレイヤーについては、首都圏では消費水準は高くなく、

図表 23 大都市の東西による消費嗜好の違い（被服、教養娯楽等）

地方	首都圏で多い									
	男子用洋服	私立授業料等	パーソナルコンピュータ	音楽・映像収録済メディア	国内パック旅行費	外国パック旅行費	スポーツ月謝	音楽月謝	映画・演劇等入場料	スポーツ観覧料
札幌市	118.4	64.0	68.8	120.4	77.3	83.3	106.7	101.7	109.6	165.4
仙台市	102.9	82.8	100.5	117.6	80.4	96.6	80.6	98.9	95.8	197.5
新潟市	77.3	89.9	78.7	101.1	69.4	18.5	97.1	76.2	67.3	98.3
さいたま市	140.5	195.4	143.9	173.6	129.2	170.4	127.4	88.8	142.4	186.5
千葉市	132.8	139.8	98.8	150.7	161.0	219.1	116.2	125.0	140.6	163.2
東京都区部	152.6	270.5	146.8	151.7	140.0	226.3	137.7	139.2	183.8	125.3
川崎市	130.8	149.1	116.6	128.5	121.1	156.2	131.3	127.0	137.8	192.6
横浜市	152.5	184.1	156.1	109.1	139.4	243.6	179.1	154.2	131.2	66.1
相模原市	94.4	98.6	110.9	81.7	100.7	145.9	86.5	66.2	96.2	54.6
静岡市	98.7	80.4	81.8	80.2	71.3	72.3	124.8	84.6	89.1	126.5
浜松市	83.7	44.3	77.3	136.8	77.8	189.9	138.0	131.8	100.3	34.2
名古屋市	111.7	117.3	129.3	144.5	120.0	144.2	95.6	126.2	101.6	84.6
京都市	102.3	120.8	86.9	131.0	102.3	135.7	114.0	110.1	139.4	60.8
大阪市	82.5	98.8	57.2	77.6	77.8	78.1	92.2	78.7	129.1	54.4
堺市	101.7	175.9	92.9	74.7	124.6	236.7	117.2	130.4	173.7	54.8
神戸市	107.3	82.9	102.1	72.9	89.3	69.8	80.6	82.4	101.2	57.1
岡山市	102.2	80.2	70.3	85.5	95.2	78.5	101.9	108.8	100.6	90.3
広島市	118.3	81.3	105.2	127.3	105.2	60.6	72.4	61.8	90.5	454.0
北九州市	102.5	42.8	78.3	58.3	105.2	145.9	108.7	88.1	74.6	77.9
福岡市	117.9	150.1	156.9	109.9	111.1	141.1	136.5	121.0	146.5	105.7
熊本市	96.9	66.3	84.9	77.3	67.6	64.5	86.6	116.9	72.1	43.8
備考 (特に多い地域)						国際空港の近くで多い				プロスポーツ本拠地で多い

全国 = 100      ~110      ~120      120以上

札幌市、広島市、福岡市など、むしろ東京から遠い都市で高いという傾向が見られ、首都圏で高いパーソナルコンピュータとは対照的な消費傾向となっている。全体的に、情報の発信を伴う商品・サービスが首都圏で、受信に関する商品は地方都市での支出が多いといえる。

このほか、ペット関連支出は、さいたま市を除いた東日本の各市では、いずれも消費水準は120以上、一方で、大阪市以西の西日本各市では、熊本市を除いていずれも100以下と、東西で嗜好がはっきりと分かれている。ペットの支出対象として最も多いのは犬であると思われるが、気温や積雪といった気象条件のほか、犬が狩猟や牧畜に使われていたといった歴史的な背景が影響している可能性もある。

また、寺・神社への寄付、護摩木などの信仰・祭祀費は、西日本の各市での消費水準が高い。宗教や信仰に関しては、西日本の方が歴史は古いと思われ、有史以来の生活史に関わる伝統・

文化が現在の消費嗜好にも反映されていることがうかがわれる。

県内2市をみると、これらの東西で嗜好の分かれる2品目については、ペット関連支出は隣接する神奈川県各市まで、信仰・祭祀費は名古屋市以西の消費水準が高くなっており、静岡市と浜松市は、いずれも転換点あるいは“緩衝地帯”といった位置付けにあるといえる。そのほかの教養娯楽関連の費目については、県内2市は首都圏の影響下にはなく、これらの消費支出に関しては全体的に控えめである。しかし、静岡市には、スポーツ月謝、スポーツ観覧料、スポーツクラブ使用料など、スポーツ関連の消費水準が高いという特徴が見られる。

また、浜松市には、音楽・映像収録済メディア、音楽月謝など、“音楽の都”としての矜持も垣間見えるほか、外国パック旅行費、遊園地入場・乗物代など、名古屋市に近いことによる影響もうかがわれる。

地方	首都圏で多い					首都圏以外で多い				
	スポーツクラブ使用料	文化施設入場料	遊園地入場・乗物代	ペット関連支出	装身具	テレビ	ビデオレコーダー・プレイヤー	音楽・映像用未使用メディア	パーマネント代	信仰・祭祀費
札幌市	82.7	60.6	86.2	132.4	100.4	135.9	171.9	123.5	158.3	65.3
仙台市	118.7	95.2	73.6	125.3	118.9	122.5	83.6	96.7	126.6	60.4
新潟市	78.7	92.4	60.3	125.1	73.3	124.3	104.0	98.5	115.9	100.6
さいたま市	140.9	119.4	102.6	99.1	83.6	84.7	47.2	132.2	100.7	68.9
千葉市	177.2	137.9	98.4	129.2	81.4	47.5	89.6	104.3	99.4	68.5
東京都区部	192.7	139.9	141.3	126.1	206.3	99.1	99.9	108.4	118.6	126.2
川崎市	170.7	108.4	146.0	151.1	174.9	39.6	89.9	116.7	76.3	74.6
横浜市	200.4	126.9	129.0	127.5	251.0	104.7	72.0	113.7	116.1	108.9
相模原市	123.1	106.7	119.8	142.9	61.9	106.3	85.4	102.6	74.0	78.0
静岡市	106.9	108.5	75.5	103.4	177.9	97.0	62.1	100.1	56.0	82.8
浜松市	68.0	117.0	121.9	116.3	64.8	102.1	203.8	113.4	37.7	104.1
名古屋市	117.1	144.9	167.2	119.5	100.4	94.8	213.0	90.1	110.8	141.2
京都市	104.7	141.8	135.7	107.8	64.1	65.0	76.0	94.0	130.2	129.0
大阪市	113.9	94.3	126.1	90.0	259.4	87.7	101.2	90.9	83.8	112.6
堺市	125.9	102.5	129.7	95.2	97.4	98.9	69.3	91.4	102.0	128.1
神戸市	135.0	98.5	89.3	75.6	59.3	154.8	108.6	102.4	77.4	143.1
岡山市	95.8	98.6	114.0	89.7	99.1	141.3	91.5	82.8	81.2	105.6
広島市	126.0	100.3	57.2	98.6	166.4	143.3	217.1	138.7	82.1	81.9
北九州市	66.7	89.4	64.4	72.3	106.0	94.2	93.5	81.0	116.2	157.1
福岡市	90.6	116.2	102.5	83.9	81.0	171.2	147.6	89.6	83.5	137.1
熊本市	93.8	57.3	89.7	106.1	121.3	99.5	101.8	91.8	116.3	124.5
備考 (特に多い地域)		文化施設の多い都市で多い	テーマパーク周辺で多い	東日本で多い		首都圏から遠い地域で多い				西日本で多い

総務省「家計調査年報」をもとに作成

## 4. まとめ ～静岡県の消費特性～

### 活動的で実利的な消費嗜好、「食文化」の発信源に

以上、「家計調査」の分析結果を踏まえて、改めて静岡県（静岡市、浜松市）の消費特性についてまとめてみたい。

#### 立地条件による要因

##### 活動的で実利的な消費嗜好を醸成

地域ごとの消費支出の大きさは、気象条件や都市規模（大都市か地方か）といった地域自体の立地条件のほか、消費支出の対象である各品目（商品、サービス等）の生産地、集積地や情報発信源との近接性が影響している。静岡県は、被服や教養娯楽に関する品目については、最大市場である東京都には、日常的に商品、サービスの情報に刺激を受けるほど近接しておらず、消費支出は全体的に控えめである。

静岡県の立地条件を考察すると、消費環境としては、気象条件に由来するコスト負担が少なく、済む一方で、静岡市の家賃負担、浜松市の自動車関係費、また、両市とも大学が少ないことによる仕送り金の多さなどの必需的な消費支出があり、家計全体の支出を抑える必要もある。一方で、年間を通じて過ごしやすい気候により、屋外型のアクティブな消費行動に好適な環境にあるともいえ、結果的に洋服、身の回り品など華美なものより、活動的で実利的な支出を好む消費志向が醸成されたともいえる。

#### 文化的な要因

##### 静岡県は東西文化の転換点・融合点

また、このほか消費特性に影響を与える要因として、国内の東西における歴史、伝統、文化の違い等がある。関東地方は、国内最大の市場であるとともに、情報・文化の集積地、発信地として、比較的新しい文化、情報に反応しやすい一方、近畿を中心とする西日本は、日本の伝統的な文化が守られている一面も見られた。

静岡県は、東西国土軸の上に位置し、情報文化の通過点・交流点、東西文化の転換点・融合

点に位置している。

特に食文化に関しては、産地や歴史的経緯により、国内東西で嗜好が分かれる品目も多い中で、静岡県は平均的、あるいは静岡県内の静岡市から浜松市の間で東西の嗜好が切り替わる品目も多数みられた。

#### 情報発信の可能性

##### 東西双方向に向けた「食文化」の発信源に

東西の中間として平均的になる傾向は、換言すれば、東西双方向の嗜好に通じているともいえる。静岡県はモノづくり県として、多彩な産業が集積しており、豊富な食材の生産地でもある。多彩な食材の生産拠点であるとともに、東西食文化の融合点として、「食文化」の発信源となる可能性があるのではないかと。

静岡県は、和食関連食材としては、かつお、まぐろ、わさび、お茶などの全国一の生産地であると同時に、家計におけるこれらの品目の消費水準も高い。食に関しては、静岡市、浜松市とも比較的似通った嗜好ながら、どちらかといえば静岡市は東日本に近く、浜松市は名古屋市など東海地方との共通点が多い。東西双方向へ向けた食文化の情報発信が可能な立地条件であるといえる。

さらに、静岡県の恵まれた気象条件や自然環境は、屋外型レジャーやスポーツに好適な立地環境であり、自転車、自動車、スポーツ関連の消費水準も比較的高い。静岡県では今後、2019年にラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技と、国際的スポーツイベントが開催され、世界的な注目が集まる。イベントを機に、県内においてもこれらのスポーツ関連消費の機運が醸成され、他の地域資源とも絡めた情報発信にも期待がかかる。